

6月11日(日曜日)の「九条の会さかど12周年のつどい」では、「10区市民の会」に会として参加するかどうかを話し合います。

今回の「つどい」では、今後の九条の会さかどが大きな一歩を踏み出すかどうかの判断が求められています。

会としての参加を決断するにせよ、会としての参加はしないにせよ、「10区市民の会」の丁寧な説明と、大勢の皆さまの参加による納得のいく話し合いが必要です。

以下は、運営委員会の見解ではありません。様々な意見を持っている会員の一人から出された、「話し合いの取っ掛かりのひとつ」としてお読みください。

10区の会と九条の会

元町 岩淵正樹

不破幸司さんの投稿「平和と民主主義の危機に市民と野党が立ち向う！」にありましたように、「10区市民の会」が結成されました。九条の会さかども、“会としての参加”が呼びかけられています。

会員の中から「九条の会さかども会として参加するのが当然だ」という声があがっていますが、「会としての参加はどうか」といった慎重な声も聞こえています。

果たして、九条の会さかどは、「10区市民の会」に会として参加し得るものなのでしょうか。

九条の会さかどは、「九条を守ろうという一点で幅広い共同と運動への参加」を呼びかけ、2005年に設立されました。「会則」でも、「活動」として「憲法9条を守ろうという一点での幅広い共同」を掲げています。

では、「10区市民の会」はどうでしょうか。

「10区市民の会」は、『安保法制廃止・立憲主義回復』を求める市民の共同の運動が発展し「次の衆院選に向けて」「4野党(民進・共産・社民・生活)統一候補をつくるために、その推進母体となる」べく設立されたものです(不破さんの投稿から)

私個人としては、「安保法制廃止」に異存ありません。「立憲主義回復」にも異存ありません。「次の衆院選に向けての4野党」にも、共感を覚えます。

ただ、そこに「9条」がない、9条が掲げられていないことには、違和感を覚えます。

「会として参加するのが当然だ」という人たちから

は、こういった声が聞こえてきます。「立憲主義回復」なんだから、「護憲」だよ。護憲」だから9条を守るんだよ。だから九条の会さかども「10区市民の会」に入らなくちゃ!

果たしてそうでしょうか。「9条を守る」イコール「護憲」でしょうか。

ここで、私の立ち位置を明らかにしておきます。これは、別段隠してきたことではなく、これまでの「つどい」などでも語ってきたことではありますが、私は「護憲」ではありません。

私は、「9条は守る」が、9条以外については、とりわけ9条の前にある「天皇条項」については「人権」に反していると捉えています。つまり、私は、「天皇条項」なんて廃止したいと思っている改憲派です。でも、「9条を守ろうという一点」でもって、九条の会さかどに参加しています。

「9条を守ろうという一点の幅広い共同」ということは、9条以外については、色々あるということです。色々あるが、「9条は守ろう」ということです。

これまで10数人の人たちを九条の会さかどにお誘いしてきましたが、誘う際に述べたのは、他には色々あるにしても(あったにしても)「9条を守ろうという一点」での共同です。

「9条を守ろうの一点」から、ひとつずつ見ていきましょう。

安保法制(戦争法)は9条の精神を踏みにじるもの。なので、九条の会さかどが「安保法制廃止」はわかります。では、「立憲主義回復」は?

立憲主義とは、国家権力は憲法によって制限されるということ。「立憲主義回復」とは、憲法に基づく政治を「アベ政治」から取り戻すこと。

憲法に基づく政治の回復とは、9条を守れではありません。

自民党のブレーンであり改憲派の憲法学者として有名だった小林節教授も、「立憲主義を守る」点では一緒です。解釈改憲ではダメ! 明文改憲だ! の改憲派の人たちとも一緒にやれる、より幅広い運動が、「安保法制廃止・立憲主義回復」です。

九条の会さかど 12周年のつどい

日時 6月11日(日曜日)13時30分~16時
会場 坂戸駅前集会施設(2階)
内容 近隣の9条の会にも参加を呼びかけ意見交換し
「10区市民の会」への会としての参加を考える

原爆投下 71年目の真実(5)

末広町 石川裕一

それ自体がダメだということではありません。ですが、「9条についてはどうか」を問題にしない、問わない運動に、九条の会さかどが会として加わることができるのかということです。

「10区市民の会」は、「次の衆院選に向けて4野党統一候補をつくるために、その推進母体となる」活動ですので、九条の会さかどが各種選挙を迎えるにあたってこれまでどういった活動をしてきたかを振り返ってみましょう。

九条の会さかどでは、2008年4月の坂戸市長選・市議選にあたって初めての「9条アンケート」を行ない、「9条はこのままでよい」候補、「9条は変えたほうがよい」候補、「無回答」の候補を、その候補の「9条への思い」とともに九条の会ニュースやホームページを通じて公表してきました。

以来、衆院選、参院選、県議選、知事選と、坂戸市が選挙区となる選挙があるたびに、「9条アンケート」を続けてきました。

どこが「9条を守ろう」としているのか、誰が「9条を守ろう」としているのかを明らかにするとともに、「9条を守ろうという一点」での共同行動の礎のひとつを準備してきたと思っています。

直接選挙に関わらない団体だからこそ送ることができたアンケート(公開質問)です。特定の候補者の推進母体に名を連ねながらできるものではありません。

百歩譲って、アンケートを送ることができたとしましょう。

「安保法制を廃止し立憲主義を回復した上で、立憲主義に基づき9条を変える」と答えた人であっても、「4野党統一候補」として選んだからには九条の会さかども当選に向けて活動するという事です。

そもそも、これまで送ったアンケートに全て「無回答」だった人が「4野党統一候補」になったとして、今回も「無回答」であっても、「4野党統一候補」として選んだからには九条の会さかども当選に向けて活動するという事です。

「憲法9条を守ろうという一点」で集まったはずの九条の会さかどが、「9条を変える」人や「無回答」の人を「4野党統一候補」として選んだからには当選に向けて活動することになるなんて、あり得ないことです。

が、それでも、九条の会さかどの「10区市民の会」への参加が選ばれた場合、「10区市民の会」の活動をするのは他の誰でもありません。選択した人自身です。参加は選んだが、どう活動するかは運営委員会にお任せします!とはいきません。「10区市民の会」での活動にも責任を持つ覚悟をもってお選びになっていただきたいと思います。

最後に、ワサビ抜きでも寿司ですが、9条抜きでは九条の会の活動ではありません。

9条抜きの「10区市民の会」に名を連ねる九条の会さかどには私は参加できかねますが、9条抜きであっても「10区の会」が坂戸で作られるなら、個人として参加できます。

坂戸での「10区の会」の結成を期待します。

目標変更! 広島へ

京都への原爆投下の許可は難しいと判断したグローブス准将(原爆計画責任者)は、新たな目標として日本有数の港と軍事物資の供給基地が集結している広島を提案します。トルーマンは、広島に原爆を落としても一般市民の犠牲はないと思込まれます。

7月25日、グローブスが起草した指令書には「小倉・広島・新潟・長崎の内1ヵ所に投下せよ」とありました。この指令書をトルーマンが承認した記録は見当たりません。

原爆投下は軍の独走

大統領の明確な決断がないまま原爆投下は軍の主導で進められていきました。グローブスは日本空襲の拠点となっていた太平洋上のテニアン島に投下爆撃の特殊部隊(509混成軍団)を集結させます。全米から選抜された搭乗員で構成された爆撃部隊です。

この広島への原爆投下に参加したレイギャラガーの証言が作戦の狙いを語っています。「司令官からは、目標は広島。町を徹底的に破壊しろと命じられた」。

軍が作成した航空写真の投下目標は、相生橋でした。これを目標にしたのは、橋を中心に5キロの範囲の円が山際ギリギリまで広がっていたからです。最大の破壊効果を狙ったのです。

破壊尽くされた広島

8月6日、テニアン島を離陸、8時15分広島へ原爆投下。レイギャラガーの日記には「二度と見たくない光景だった。申し訳ないが地上の人に心を向けることは無かった。作戦は完全に成功した」。

この時トルーマンは、戦後処理について話し合うためのポツダム会談の帰り道、太平洋上の船の中で報告を受けました。演説原稿には「この戦争を引き起こした敵の上に原子爆弾が解き放たれた」とあります。この時点ではトルーマンは、まだ軍の狙いには気がついていなかったと思われます。

一方ワシントンで報告を聴いたグローブスは、開発した科学者達に「君達を誇りに思う」とねぎらっています。

政府と軍の思惑がかけ離れたまま投下された原子爆弾。その死者21万人以上。トルーマンが認識の誤りに気づいたのはワシントンに戻った直後でした。(次号に続く)

ままれ九条! 武力で平和はつukれない

元町 新井竹子

6月10日(土曜日)の「子どもの本・九条の会9周年のつどい」で、琉球新聞政治部長による「沖縄でいま起きていること」と題した講演が13時半からあります。「戦争と平和を考える子どもの本」展も開かれます。

会場は、池袋駅西口(東武デパート側)すぐの東京芸術劇場5階ですので、参加はいかがでしょうか。

今後の運営委員会(会員なら誰でも参加できます)

6月22日、7月27日、8月24日(第4木曜日10時~12時)会場は、北坂戸駅東口の坂戸市文化施設オルモ1階。